

「リアル」なメキシコ・グアナフアト州

武田高等学校1年 来山 開生

僕がこの派遣事業に応募した一番の理由は「本当のメキシコを知りたい」ということでした。というのも、我々はテレビや新聞でメキシコ、あるいは南米の国々での悪いニュースをたびたび目にします。それで実際はどうか確かめたいと思っていただけです。この観点からすると、特に二つのことについて皆さんに報告しなければなりません。

第一に治安については、訪問前に自分が抱いていたイメージと実際に現地で知り得た事実との間には大きなギャップがありました。治安はととも良かった、ということです。もちろん地域によって差があるとは思いますが、少なくともメキシコは危険な所ばかりではない、という事実を発見することができました。

第二に労働環境についてです。「メキシコでの過酷な労働環境」というのはよく聞く話ですが、現地で日本企業（マツダ、芦森工業）を訪れ健全な労働環境を確認することができました。マツダでは社長や副社長、メキシコ人社員の方々とお話する時間を設けていただいたのですが、その中で、利益の追求だけでなくそこで働く現地の人々のことも考えている企業だ、ということを感じました。



特に副社長の「ここは社員自らが労働環境を改善できる職場だ」という言葉が記憶に残っています。また、革産業で有名なレオン市ではいくつかの工場を訪れましたが、作業内容こそ単純労働ではあったものの、特に「過酷」という印象は受けず、人々がしっかりと働いている光景を見て安心しました。

そしてもう一つ皆さんにお伝えしておきたいのが、現地の若者、特に高校生についてです。



十人程度の高校生たちに広島についてのプレゼンをする機会があり、僕は特に「平和」に重点を置いて話をしました。その中で「広島に原爆が落とされたのはいつ？」という問題を出したのですが、なんと何年何月何日にとどまらず何時何分まで正解されてしまいました！日本の中でさえ原爆がいつ落とされたか答えられない若者が増えてきている今、遠く離れた地に住む高

校生の知識に驚くと同時に嬉しく感じました。また、自分たちの希望で急遽訪れることになった現地の高校では、予想以上の熱烈な歓迎を受け、まさに「ジャパン・フィーバー」というような感じでした。大変幸せな気持ちになったのと同時に、この友好関係を継続、さらには発展させていかなければならないという使命感を覚えました。



このように、今回の派遣事業では日本には知り得られないたくさんの事実を発見することができました。僕は昨年も広島県のプログラムで中国・四川省に派遣されましたが、その際も同様の経験をしています。これらを通じて、日本にいて手に入る情報だけを鵜呑みにするのではなく実際に現地を訪れ目や耳でその国・地域のリアルな状況を感じることの大切さを痛感しています。と同時に、その機会を得ることのできた人間として今回学んだことを周りの人々に伝えていく義務があるとも思っています。想像上のメキシコ・グアナファト州ではなく、実際に「見た」メキシコ・グアナファト州を広めていきたいです。

グアナファト州青少年交流派遣事業報告書

広島大学附属高等学校 2年 田島実歩

私は今回広島県の青少年派遣事業でメキシコ、グアナファト州に行かせていただき、多くの素晴らしい経験をさせていただきました。

そもそも私はこの事業を知るまでグアナファト州というところを全く知りませんでした。そこでグアナファト州について調べたところ、まずグアナファト市内の美しい街並みの写真を見つけ、街全体が世界遺産であること、銀鉱を中心に栄えた町であることなどを知り、非常に興味を持ちました。もともと和食と共にユネスコの世界無形文化遺産に登録されているメキシコ料理に興味があり、何としてもここに行ってみたいと思いました。

実際にメキシコではたくさんの経験をしました。

なんとといっても一番驚いたのはやはりグアナファト市内の街並みです。カラフルな家々が立ち並び、通行できる道は細く、まるで中世ヨーロッパのような雰囲気でした。スペインの植民地時代にクリオーリョたちが銀山発掘による資金で本国に負けまいと、メキシコの土地の風土を取り入れた独特なバロック建設の町を作り上げたのです。そして鉱山で栄えた時の排水溝が現在は地下道になっており、多くの車の通行手段になっています。その町は何もかもが日本とは全く違い、否が応にも異国に来たのだと実感させられました。

また、グアナファトではビセンテナリオ博物館、グアナファト大学、メキシコ独立記念の地、サン・ミゲル・デ・アジェンデ、ドローレス・イダルゴなども訪れることができました。

もう一つ印象に残ったのは4日目のテキーラ工場です。メキシコで有名なテキーラですが、気候の問題でメキシコの中でもテキーラを作っているのはグアナファトともう一つの州だけなのだそうです。伝統的な作業の工程やそこで食べた伝統的な料理も印象的でしたが、一番記憶に残っているのはそのショップでのことです。お土産にテキーラを買おうと商品を見ていたら「テキーラはそのブランドが一番だよ。」と教えてくれた現地の方に出身地を聞かれたので「日本の広島です。」と答えると「え！広島！？」とびっくりされたので「知ってるんですか？」と聞くと「知ってるよ。第二次世界大戦で原爆が投下されたところだよ。悲しい歴史だ。」と言われました。地球の反対側のお酒好きのおじさんも広島の事を知っているということにとっても驚きました。と同時に広島という地の特別さを改めて感じ、広島に生まれた私が海外に出た時に果たすべき役割について考えるきっかけになりました。今回の事業では平和学習はあまりありませんでしたが、せっかく広島の代表として行くのだから、今後広島の平和の意識を発信できるような活動が増えるといいと思います。

そして、今回のグアナファト州訪問で一番思い出に残ったのはホームステイです。ホストファミリーのみなさんは本当に暖かく私を歓迎してくれ、短い時間でしたが一緒にとっても楽しい時間を過ごすことができました。事前に書いた私の自己紹介をきちんと読んでくれていて、好きな本としてあげた日本の小説の内容まで調べて話してくれたことに本当に驚きました。また、サッカー観戦が好きと書いていたら地元のクラブの試合に連れて行ってくれました。私は広島でもサンフレッチェの試合をよく見に行くのですが、スタジアムの立地、雰囲気、サポーターの熱気、町へのサッカーの浸透具合、何もかもに大きな差を感じました。試合のない日の街中にもクラブのTシャツを着た人がたくさんいるという愛され方は広島のカーブのようなもの

かなと思います。他にも私がしたい、と言った事をたくさん叶えてくれました。そして、日本のこと、私のこと、メキシコのこと、自分たちのことなど、私に本当に多くの話をしてくれました。自分とは違う文化や価値観を持った人と会話するのは新しい発見がとても多く、日本との共通点や違いを見つけられ、本当に楽しいものでした。ホストファミリーとは帰国後も連絡をとり、いろいろな話をしています。

今回のグアナフアト州訪問で改めて異文化交流の楽しさ、私の果たすべき役割に気づくことができました。このような素晴らしい機会を与えてくださった広島県職員の方、グアナフアト州教育相の方をはじめ、この事業に携わってくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。



平成 28 年度グアナファト州青少年交流派遣事業

広島県立呉三津田高等学校 2年 崎山 凜

広島県とメキシコ・グアナファト州は、自動車関連産業を中心にマツダを初めとする県内企業の進出などにより、平成 25 年 11 月に経済交流に関する覚書、平成 26 年同月に友好提携を結んでいます。今年度、この交流の広島県からの派遣が初めて行われ、県内高校生 3 人のうちの 1 人として参加しました。

私がこの交流に応募しようと思った理由は、2 つあります。1 つ目は、私自身がグアナファト州という州についても、友好提携についても知らなかったからです。きっと多くの人が未だに知らないと思います。2 つ目は、メキシコという地球の裏側のような遠い場所についてもっと知りたいと思ったからです。多くの方は私に対して、危ないなどの言葉を掛けましたが、私は自分の目で見て確かめたいという強い思いがありました。

8 月 14 日、約 24 時間かけて私はメキシコに行きました。

グアナファト市は、ユネスコの世界遺産に登録されているほど歴史があり綺麗な街だと聞いていましたが、実際に見ると想像以上に異国感が漂う美しい街でした。この交流では、グアナファト州内の教会や遺跡などの名所を巡ったり、高校・大学訪問、メキシコの伝統産業やマツダの工場見学、ホームステイなどを行いました。その中でも特に印象に残ったことは、た



さんのメキシコの人々に出会えたことです。メキシコ人は陽気なイメージがあると思いますが、想像以上に明るく、日本人には欠けた即興性やフレンドリーさといった国民性を持っていました。高校訪問をさせてほしいという、予定にはなかった私たちの急なお願いを受け入れ、予定を調節してくださった教育省の方々には本当に驚かされました。また、高校生 3 人と 3 日間行動を共にし、英語でたくさんの会話をしたり、音楽隊と市内をまわったりしました。一緒に笑い合ったときは国籍の違いを全く感じないほど楽しかったです。最後には、ホームステイを 2 泊 3 日で行いました。14 歳とは思えないホストシスターの英語力や最高のおもてなし、常に足りないことはないかと気にしてくれるホストファミリーの優しさに触れました。「我が家はあなたのメキシコの家だ」と言ってくれたときは、本当に感動しました。

メキシコの挨拶はハグをしてキスの音を立てます。日本人からすれば初対面なのにと驚きますが、彼らからすればそれが当たり前なのです。外国に行くと、自分たちとは異なる文化を持った人たちに出会います。しかし、グローバル化が進む世の中では、それを受け入れることがとても大切だと思います。イメージやインターネットと実際に目で見るのでは大きく違います。何においても良い機会を与えられたとき、それを無駄にせず、少しの勇気を持って挑戦してみてください。きっと何かは自分のためになると私は信じています。